令和６年９月13日

6年生保護者の皆様

丹波篠山市立岡野小学校　校長 足立 貞治

6年生『全国学力・学習状況調査』の結果について

4月18日（木）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が返ってきました。全国学力・学習状況調査は、毎年、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。

本校でも本調査結果を分析し、まとめました。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、保護者・地域の皆様の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導上の工夫改善に努めます。学校の教育活動に対して支援していただければありがたいと思います。また、それぞれの結果については、本日、封筒に入れて返却しています。お子様と一緒にご確認ください。

〈算数〉

○成果……「数と計算領域」計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する力

全体的に良好で、全国の正答率を5%以上上回る問題がたくさんありました。その中で、正答率90%（全国平均56.9%）の問題は、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題です。この問題は、350×2=700であることを基に、350×16の積の求め方と答えを書いて説明する「数と計算領域」の問題です。この他にも、正答率90%（全国平均70.1%）の問題は、「540÷0.6=900」のように、除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかを確かめる問題です。

このような結果は、普段の朝スキルにおいて、正確に計算する力を高める活動を継続するだけでなく、授業においても場面を解釈して数量の関係を捉え、筋道を立てて考えたり、知りたい数量の大きさの求め方を説明したりする活動を積極的に行ってきた成果であると考えます。

●課題……球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうか考察する力

球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式で表すことができるかどうかを考察する問題の正答率は25%（全国平均36.5%）でした。この問題は、直径22㎝のボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題です。球の直径と立方体の一辺の長さが等しくなる関係を捉え、立方体の体積を求める公式「一辺×一辺×一辺＝立方体の体積」を活用して、「22×22×22＝10,648㎤」を求めます。この他にも、直方体の見取り図について理解し、描くことができるかどうかをみる問題や直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているどうかをみる問題など、図形領域の問題が他の領域に比べて少し課題があること、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られました。

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

今回の結果より、日常の生活では図形領域に関する問題を活用する場面や面積や体積を求める公式を扱う機会はあまりないものの、その分、各学年で学習する機会をより重視し、図形領域で大切となる「図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し，図形の性質や図形の計量について考察する力」を高められるように学習を進めていきます。

また、例年の傾向と同じく、思考力・判断力・表現力を高められるように、日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させるとともに、思考力・判断力が必要となる資料やデータを言葉と数を使って表現する力を身に付けさせられるように継続した取り組みをしていきます。

〈国語〉

○成果……目的や意図に応じて、集めた材料（情報）を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にする力

全体的に良好で、全国の正答率を10%以上上回る問題がたくさんありました。知識及び技能を問われる領域の「言葉の特徴や使い方に関する事項」は正答率63.8%（全国平均64.4%）、「情報の扱いに関する事項」は正答率95%（全国平均 86.9%）、「我が国の言語文化に関する事項」は正答率80%（全国平均74.6%）でした。思考力・判断力・表現力等を問われる領域の「話すこと、聞くこと」「書くこと」「読むこと」領域では、平均正答率が71.9%（全国平均66.3%）でした。

特に、目的や意図に応じて、集めた材料（情報）を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題や情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る問題では、正答率がともに90%以上と結果がでました。これは、今年度から本校の国語科研究でとりくんでいる「自分の考えをもち、表現する子を目指して ～目的や意図に応じて複数の資料（情報）を用いて表現する力の育成～ 」に関係する分野でもあります。情報化社会の今、複数の資料や情報から自分の考えを持ち、自分に必要な資料や情報を使って自分の考えを表現する力は必要不可欠だと感じます。今後も、継続して研究に力を入れていきます。

●課題……漢字と物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書くこと

全国の正答率を下回る問題はほとんどありませんでしたが、2問だけ全国の正答率を大きく下回る問題がありました。1問目は漢字で、2問目は物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題でした。

漢字では、「上級生が下級生に応援の仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、きょうぎの作戦を考えたりします。」という問題で、正答率は20%（全国の正答率43.3%）でした。答えは「競技」ですが、児童の半数が無解答も含めて「競技」以外の字で解答をしていました。

2問目は、物語を読んで人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題で正答率は55%（全国の正答率72.6%）でした。この問題では、「心に残ったところ」「その理由」を、文章中の言葉や文を活用し、60字以上、100字以内でまとめて書く条件も指定されていました。

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

漢字学習では、朝スキルタイムで設定している漢字スキルや辞書引きスキルの時間などを使って、漢字の意味を考えながら漢字を読み書きする学習や同音異義語のそれぞれの意味を辞書で調べて意味を理解して書く学習を進めていきます。

また、条件付き作文についても、朝スキルで取り組んではいますが、授業でも教科書に出てくる物語を読んだ感想を書く条件に沿ってまとめ書く活動など、継続して取り組みを続けていきます。

【保護者の皆様へのお願い】

今回の調査の結果から、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（スマホ等を含む）をしますか。」という質問の解答で、3時間以上、4時間より少ないと解答した児童の割合が31.8%（全国12.6%）という結果が出ました。個人の自由な時間も大切ですが、家庭での予習・復習にとりくむ学習習慣の確立は、中学校進学に向けても大切なことです。学校で学習した内容を自主学習ノートにまとめたり、テストで間違ったところをおさらいしたりするなど、継続して学びに向かう姿勢を持ち続けられるよう、ご家庭でも声掛けをお願いします。